

新たな県立高等学校再編計画（案）に関する地域検討会議記録要旨【久慈ブロック】

平成 28 年 2 月 4 日（木）

県久慈地区合同庁舎 6 階 大会議室

【遠藤 久慈市長】

- ・ これまでの地域検討会議では、久慈市としての想いを話してきた。
- ・ 現在、久慈市は地方創生に全力で取り組んでいる。子ども達には、持てる能力を發揮できる人生を送ってほしいと思っている。地域を担う元気に頑張る前向きな子ども達を育てるために、高校の存在は重要と思っている。
- ・ 県教委の説明では、少子化が進行し高校入学者がどんどん減っていくということであった。これについては、地元としてできるだけ食い止めるための抵抗をしていきたいと思っている。
- ・ これから生まれる子ども達が高校に入学するのは 15 年後になる。再編計画は 10 年先を見据えてのものであるが、その間については I ターンや U ターン等による交流人口が増えないと話にならないのは残念だ。
- ・ 教育の機会の確保につきろ思っている。久慈地域の交通事情等を考えると、地元の高校を選択する生徒が圧倒的に多く、できるだけ配慮を賜りたい。
- ・ 入学者が減り学級減を変えられないとしても、教員の配置については最大限の配慮をいただきたい。学級減となれば高校標準法に従い配置できる教員が減り、専門科目の教員が確保できない状況が予測されるということだが、指導力のある教員が減ることなく教育の質を維持することは大事なことである。特に久慈高校は、県北地域の進学校と位置づけられると理解しており、その点に配慮願いたい。
- ・ 久慈東高校と久慈工業高校についても、卒業生の多くに地元の産業振興を担っていただいている。
- ・ 高校再編で生徒の選択肢や教員の配置、学力的なレベル落とさないような配慮をしていただかないと、地元として再編案に反対せざるを得ない。教員の配置が減り学力的なレベルが下がることは是非避けていただきたい。
- ・ 学級数が減り教員が減るとなると、地域の元気がなくなる。元気な地域を皆で作ろうと思っている。夢と希望を持ちながら、子どもの能力を伸ばせる道筋を示していただきたいと思っている。

【日當 洋野町 副町長】

- ・ 再編計画案については、これまでの意見を全てとまではいかないが、ここまで認めていただいたことには一定の評価ができる。それは、統廃合される学校が無かったということでの評価である。
- ・ 生徒が減少している現状からすれば、学級減もやむなしと思う。
- ・ 少子化が進んでいる中で、これまでの学校設置の基準で議論して良いのかという感じもする。子どもの数が減っていることをしっかり捉え、従来どおりの制度で検討するのではなく、1 学級定員を 35 人とするのを検討しても良いのではないかと。後期計画を策定する中で検討いただきたい。
- ・ 種市高校は平成 30 年度に普通科 1 学級減とする再編案である。その他の学校は、平成 31 年度に学級減となるが、どのような考えから実施時期に違いがあるのかお聞きしたい。

【小田 野田村長】

- ・ 久慈工業高校を存続してほしいという立場でお願いしたい。示された資料については、将来的に中学校卒業者が減ることが前提となっている。 (次頁に続く)

- ・ 工業高校で学びたくても、経済的な理由から入学できない生徒がいることも聞いている。久慈ブロックの中学生のアンケートでは、10.3%の生徒が工業学科で学びたいと回答しており、人数にすれば約60人位になる。野田村として、経済的な事情で入学できない生徒に支援する等の努力をすることで、入学者が少ない状況は解消できると思う。
- ・ 総体的に人口が減る中で、支援をずっと続けていくことは難しいと思っている。地域が努力する時間がほしい。高校と一緒に頑張って努力したい。
- ・ 震災以降、復興に力を入れざるを得なかった。ようやく先が見えてきたところであり、これから地域の活性化や高校の存続に力を入れたいと思っている。これから頑張ろうとする時に、存続は駄目ではなく、頑張らせていただく時間をいただきたい。その上でどうしても生徒数が減るときには、校舎制についての協議もしたい。まだまだ、努力する余地はあるので時間をいただきたい。

【浜道 久慈市漁業協同組合 専務理事】

- ・ 職業教育の観点から、久慈工業高校が統合の対象になったのは残念だ。
- ・ 野田村では、下宿等への村としての支援を検討するということが、地元の高校を何とかしたいという現れだろうと思っている。
- ・ 少子化が進む中で、県教委としても苦渋の計画案だと思っている。様々な意見があると思うが、地域の意見を計画に反映させ、教育の質を向上させる再編となるように検討していただきたい。

【砂子 久慈商工会議所 専務理事】

- ・ 地方は平成27年度から地方創生に取り組んでいるのが実態である。地域検討会議は4回目であるが、非常に丁寧に意見を聞いていただいていると感じている。ただし、再編計画案が公表されたのが12月末で3月には成案化というのは、検討時間が短いと感じる。もう少し延ばせないかという想いもある。
- ・ 地方創生に取り組む中で、久慈地域の地元就職率がこれまでの3割程度から今年度は4割程度と予測されている。行政・高校・企業の取組の成果と感じている。
- ・ 少人数学級の導入も加えながら、地域経済の活性化の視点から、地元で高校を残してほしいというのが希望でもある。現在取り組んでいる地方創生によって、少しでも子ども達を育てる環境が改善され、他地域からの入学者を呼び込む取組もできないのかといった視点も出てくると思うので、さらに検討してほしい。

【南 洋野町商工業関係者代表】

- ・ 少子化等により地域が衰退する中で、苦渋の決断を迫られている。地方創生とは、どこにいても豊かな生活ができる環境を作っていくことであり、少子化によって学校が無くなれば、バランスのとれない地域になってしまうと感じている。
- ・ 交通アクセスや様々な教育に必要な条件が整っているかどうかということもあるが、生徒数が少なくなるから学級数を減らすということではなく、学校に対する地域の依存度に配慮し、地域に高校を残すことが一番大事なことはないかと思っている。
- ・ 他地域から入学してもらえるような学校の魅力づくりに取り組むことは大事ではあるが、地元の子も達が他地域に行かないような配慮をいただきたい。高校再編は地方創生の取組と反対のことをやっているように感じる。地方創生の真意を汲んだ再編をお願いしたい。
- ・ 校舎制について、例えばバス等の通学方法に配慮するということであるが、支援する期間はどの程度を考えているのか。

(次頁に続く)

- ・ グローバル教育への取組が足りない。国際的感覚を育てる教育の取組が必要ではないか。
- ・ 1 学級 40 人定員には無理がある。少人数学級の検討をお願いしたい。

【中野 野田村商工会 会長】

- ・ 久慈工業高校の統合と校舎制の導入を新聞報道で知り、突然で驚いている。前もって何か話があればと思っている。
- ・ このままだと、野田村は衰退の一途をたどると感じている。三陸沿岸道路も3年後には整備され、高台の整備もすすみ、中心市街地も3年後には整備される。平成 31 年度に校舎制を導入という再編案だが、復興が進み街に活気が出てくる時期にあたる。地元の商業関係者に、どう説明すればいいのか。そういうことまで考えての計画案なのかと思うと、言葉に言い表せない、ムカムカしている。
- ・ 工業の専門高校は、宮古市、二戸市、釜石市、そして久慈市にあり、久慈工業高校が県北の中心となって元気を出していかなければならない。学級減となり、何年か後には学校が無くなるとなれば、工業を学びたい子ども達は、お金をかけて福岡工業高校や宮古工業高校に入学しなければならない。そうすると保護者に負担がかかる。
- ・ 少子化は避けては通れないことは分かる。今後、子ども達は地元を目を向けてくるような気がする。5年後の後期計画まで統合を延ばすことができるのであれば、お願いしたい。

【上神田 普代村商工業関係者代表】

- ・ 久慈工業高校の統合と校舎制の導入については、突然の発表で関係住民は困惑していると思う。
- ・ 久慈東高校と久慈工業高校の校舎制については、距離があるので生徒や保護者等に負担がかかりリスクがあると考えている。校舎制のメリットがあれば示してほしい。合同授業で学習効果が上がるとしているが、デメリットが多くなると思う。
- ・ 校舎制となった場合に、新しい校舎となるのか。また、制服や校歌はどうなるのか気になる場所である。久慈工業高校には、校章・校歌・校訓があり、それらが統合して新たな高校となるとどうなるか気になっている。部活動も、久慈工業高校には久慈東高校にはないラグビーやウェイトリフティングがある。どのように対応していくのか。
- ・ 特例校について、統合の基準が示されているが、久慈工業高校については、特例校の基準をあてはめれば存続できる可能性があるのではないかと。

【吉田 久慈市立侍浜中学校 P T A 会長】

- ・ 再編計画案について、基本的な方針が決まってから、具体の学級減が示されると思っていたので驚いている。これから意見を検討し最終決定になると思うが、十分な検討をお願いしたい。
- ・ 地域との連携について、学校、地域の商工会議所、保護者等と連携を深めていただきたい。以前の説明では、地域から申し出があった場合に対応するということがあったが、常に地域と連携を密にできる体制を検討してほしい。
- ・ 後期計画については、十分に地域と検討した上で公表する手順を考えてほしい。公表されてからあれこれ問題が出てくることの無いような状況で検討していただきたい。
- ・ 通学支援について、激変緩和として期限を設けるのではなく、通学したい子どもがいる内は支援を継続していただきたい。
- ・ 魅力ある学校づくりについて、地元には限られた子どもしかいない。将来、人材が不足するかもしれない業種の担い手となり得る人材を育成できるように、学校・学科の配置を検討していただきたい。

(次頁に続く)

また、県外からも子ども達が集まり学べる環境づくりをお願いしたい。県外から来た子ども達の中には、高校卒業後も久慈市に残る子どももいるかもしれない。多様な人材が集まることによって、地域が活性化する。

- ・ 高校に行きたくても、何らかの理由で行けない生徒もいる。でも勉強はしたいと考えている。多部制・単位制の定時制について、減らすことのないようお願いしたい。

【番沢 洋野町PTA連合会 会長】

- ・ 生徒のことを考え、ブロック内にある程度の選択肢を残していただいた再編計画案と思う。しかし、学級減となる高校がある地域は、地域の元気も薄れていくとも感じる。
- ・ 地元高校については、地域の特色を生かし地域と連携した魅力ある高校になっていると感じている。地域と連携し、知・徳・体の調和の取れた人材の育成ができるようにしてほしい。また、いじめ問題等、生徒の置かれている状況も多様となっている。指導にあたる教員の質の向上にも配慮いただきたい。

【加藤 久慈市教育委員会 教育長】

- ・ 久慈地域において、大学等への進学に対応できる一定規模の普通科進学校が必要であることは、県教委も地域も一致するところ。
- ・ 久慈高校の1学級減に関連して、これまで大学進学に対応する学校については、最低でも5学級が必要と述べてきた。大学入試も多様化し、文系・理系の区別だけでなく、国公立大学、私立大学、医療系や農学系、工学系等、それぞれの受験科目に応じたコースが必要になっている。さらには、就職希望の生徒への指導も必要になる。そのためには一定の学校規模が必要で、1学級減となると最終的に教員配置が6人減ることになる。そうすると、理科の4科目、地歴公民の各科目の専門教員の配置が困難になる。芸術科目や家庭科についても、専門教員を配置することが今も困難だが、これも今以上に不可能になる。おそらく、非常勤講師の配置の可能性が高くなる。その面からも、5学級規模が必要である。
- ・ 久慈高校は平成6年度から募集定員が200人となっているが、入学者数はほとんど200人以上となっており、少ないときでも180人以上になっている。平成6年度と比較して中学校卒業生は約4割減っているが、それでも入学者を維持している。そういう意味で、市民のニーズはあると捉えている。
- ・ 学級減については、志願者数を確認してからでも遅くないのではないかと。県全体の教員配置や施設整備の将来的な計画もあって、事前に学級減の計画を示したと思う。将来の見通しは必要であることは理解するが、教員採用については講師等の配置で柔軟に対応できるし、施設設備についても普通高校は普通教室があれば柔軟に対応できる。
- ・ 県の管理運営規則では、40人以上の欠員があった場合には翌年度に学級減をするという規定もある。それをそのまま適用すれば、今からあえて学級減の実施年度を示さなくてもいいのではないかと。生徒や保護者のニーズを見ながら、学級減については決めていただいてもいいのではないかと。

【麦澤 洋野町教育委員会 教育長】

- ・ 再編計画案について、これまでの意見を聞き地域の特性や実態に鑑みて、心配った再編案であると、ある程度評価する。
- ・ 高校教育は義務教育と違い、高い志と情熱を持って進学をすることが大切である。そして、十分な社会性が育たなければならない。その意味で、単に中学校の延長とは違う。

(次頁に続く)

- ・ 離職率の問題についても、そのあたりが関連すると思っている。
- ・ 一番の伸び盛りである 16 歳から 18 歳の高校 3 年間は、多くの友達と多くを語り合い新しい発見をしながら成長することが大切であり、それを教員がうまく指導し大人にして有為な人材を育てることと理解している。
- ・ 少子化が進む中で、集団の中で揉まれるような環境を作るのは難しい面もある。1 学級校になっても、子ども達の将来への想いに手を差しのべられるようにしっかりと教員を配置し、一人前の社会性の豊富な人材を育てる環境を作っていただきたい。
- ・ 教育の保証の観点から、通学支援も非常に重要でありお願いしたい。

【大崎 野田村教育委員会 教育長】

- ・ 専門分野における人材育成と、地域振興のためにも久慈工業高校の存続をお願いしたい。しかしながら、生徒数が減少する中で、現在の法律や条令をはじめとする諸制度に依っては、その存続が困難なことも現実的問題として認識せざるを得ない。
- ・ 現在、村が中心となり、久慈工業高校を希望する生徒の拡大を図るために、通学費や下宿費の助成等の取組をしていこうとしている。その成果を見ながら状況を分析し、柔軟に対応していただきたい。
- ・ 将来的に、校舎制の導入は地域にある学校の施設設備の有効活用や、生徒や地域住民の教育的なニーズに応え、地域活性化のために意義あるものであると高く評価したい。今後より一層、充実した校舎制になるように検討いただきたい。

【三船 普代村教育委員会 教育長】

- ・ 意見を聞きながら、それぞれの想いを感じる。少子化による児童生徒の減少は誰もが分かっていること。
- ・ 地域検討会が始まった当初、久慈工業高校も久慈商業高校や久慈水産高校のように統合されるのかなという想いがずっとあった。校舎制とはいえ、そういう再編案が示されている。この再編計画案を練り直し再検討するのであれば、進めていただきたい。
- ・ どういう形であっても、高校再編によって教育の質を下げてはならないという想いがある。子ども達の選択肢を奪うような教育であってはならない。規則や規定にとらわれるのではなく、地区の実状に沿った、心ある対応をお願いしたい。

【関根 久慈地区中学校校長会 会長】

- ・ 数ヶ月に一度開かれる地区中学校長会では、高校再編への意見や要望は特に無かった。状況を見守っているのかもしれない。しかし、久慈地区から盛岡市や八戸市の高校に流出することは防ぎたいと思っている。過去には、大学に進学するなら盛岡市内や八戸市内の高校にという動きがあったが、地元志向が高まってきている。久慈高校が優秀な生徒を育て、大学等に進学させている実績から、地元を希望する生徒が増えていると思っている。
- ・ 高校入試を控え、面接練習を行う時期になっている。子ども達の志望理由としては、地元にある高校だから、地元だから費用が安い、通学に便利という子どももいれば、普通科に入学したいけれども学力が足りないからという理由の子どももいる。
- ・ 4 市町村に一つの高校が理想であると思うが、その枠を取りはらい、通学距離や交通手段を考えて普通科と専門学科の学級数をもう一度考えていくべきではないかと思う。
- ・ 基本的には、公表された再編計画案の通りでよろしいかと思う。地区からの流出を防ぐためには、

(次頁に続く)

周辺の普通高校の学級数が多少減っても、久慈高校を適正規模として教員配置の充実をはかり、センタースクールとしての役割を果たしてもらうことが大事なのではないか。学級数が減ると教員配置が減り、課外授業等も無くなるとなればまずい結果になる。久慈高校の学級数について5学級を確保してもらえればと考える。そして、久慈高校の学級数を決めてから、周辺の専門高校等の学級数を検討すれば良いのではないか。また、久慈高校に寮を作って、学習や部活動を充実させる等の対策も必要なのではないか。

- ・ 発達障がい等、支援が必要な生徒が多くなっている。不登校も多く、久慈高校長内校のような単位制高校があることで、救われている子どもがたくさんいる。卒業後も立派な大人に成長している。久慈高校長内校については、今後も存続させてほしい。

【県教委】

- ・ 久慈高校について、1学級減となる場合でも、十分な進学体制が確保できるように、加配を含めた教員配置について検討させていただきたい。
- ・ 1学級定員については、高校標準法に基づき40人を基本としている。現在、震災加配として高校には34人が加配されている。しかし、これがいつまで続くかということが不透明であること、沿岸県北地域では習熟度別等の少人数指導を既に行っている実態があること等を勘案し、1学級を40人定員として国からの財政措置を受けながら、教員配置を検討していくことが良いのではないかと考えている。教職員定数の改善については、国に対して引き続き要望して参りたい。
- ・ 少人数学級の導入については、義務教育は小学校4年生までと中学校1年生までが35人となり、まずは義務教育での拡大を優先して取り組んで参りたいと考えている。
- ・ 種市高校の学級減の時期については、過去3年間の進学率等から推計し、入学者が平成30年度に62人、31年度には65人、32年には58人となり、60人弱の欠員が生じると推計したことから提案したものである。
- ・ 久慈工業高校と久慈東高校の統合と校舎制の導入について、生徒確保のために地域が努力する時間がほしいという意見を十分踏まえ、実施時期を含め持ち帰り検討させていただきたい。現在、第4回の地域検討会議等を県内9ブロックで実施しており、明日（2月5日）で県内を一巡することになる。各地域の意見を検討の上、必要に応じてさらなる意見交換を行った上で、成案化していきたい。
- ・ 校舎制については、専門高校が小規模化する場合に教育の質を確保するための方法として提案しているもの。普通高校では、特例として1学級でも存続することで対応しているが、専門高校の場合には1学級となり英・数・国の教員を複数配置すると、専門科目の教員の配置ができないこともある。校舎制により両校舎を1校として運営する中で、教員配置を考えていく。公表等の方法について、皆様に先にお知らせして公開という形に出来なかったことは御理解いただきたい。また、沿岸道路等の交通網が整備されると、市町村を越える時間距離の短縮が考えられ、それらも配慮し今後検討して参りたい。
- ・ 校舎制のメリットについて、地域において工業を学ぶ機会を確保することと、統合により望ましい学校規模を確保することで生徒が選択できる科目を増加させること、工業高校からの大学等への進学や求人票を確保することによる選択肢の拡大、部活動の活発化等があり、教員を各校舎に柔軟に配置できることで、生徒の移動による負担を最小限にとどめることで、地域に高校生が残ることを目指すものである。

(次頁に続く)

- ・校歌や校章については、再編計画策定後に統合等検討委員会を立ち上げ、各関係校長、副校長、同窓会長、PTA会長、教育長、市内中学校PTA代表、中学校長会等をメンバーとして検討していくことになる。
- ・普通科同士の校舎制は考えていない。
- ・人材の育成については、産業界や行政との連携を行いながら、地域に必要な人材を育成する観点で取り組んで参りたい。
- ・学校・学科の配置については、高校に対する地域の依存度という意見があり、教育の質の確保と機会の保障を重視しつつ、御意見も踏まえながらさらに検討して参りたい。
- ・グローバル教育については、平成27年4月に改訂した「今後の高等学校教育の基本的方向」で、その視点をお示ししているところである。
- ・特例校について、普通科では1学級校として存続させることを、公共交通機関等の状況を考慮して提案したもの。専門高校は2学級が最低規模であって、1学級となる場合には統合等を含め検討していくことを、再編計画でも提案している。
- ・通学支援については、現在、統合等により公共交通機関による通学が困難で、市や保護者団体が通学バスを運行する場合にその一部を補助しているもの。再編計画に伴う通学支援については、平成28年度に具体的内容を検討したい。しかし公平性の観点から、激変緩和として一定期間の実施にせざるを得ないと考えているところもある。御理解いただきたい。
- ・管理運営規則に該当する場合の学級数調整については、震災後、個別の高校について40人以上の欠員があった場合に規則該当校として行ってきたもの。今回の計画により、ブロック内で学級数を調整したいと考えており、再編計画プログラムを示しているもの。

【小田 野田村長】

- ・市町村は地方創生と少子化対策に取り組んでいる。県も市町村と一体となってこれらに取り組むと言っているが、一方では取組の旗を振り、一方では取組に水をかけていると受け止めている。そういう受け止め方がされないように、再編計画を再度検討いただきたい。
- ・校舎制についてはこれを否定するものでなく、頑張った結果を見て検討していただきたい。
- ・東京一極集中を解消するため、国では地方への移住等が検討されている。高校教育について、地方における一極集中にならないように検討していただきたい。

【南 洋野町商工業関係者代表】

- ・統合となった場合に、統合等検討委員会を設置し検討するということがあったが、メンバーに地域の代表も入れて、地域を代表した意見が言えるように考えてほしい。
- ・久慈東高校は総合学科で、1年生では普通科の内容を主に学習しながら、2年生以降のコース（系列）を選択するという説明であった。工業学科を統合すると、同じ教育課程となるのか。仮にそうなると、専門性が薄れるということも言われており、その辺の検討も必要ではないか。

【県教委】

- ・統合等検討委員会について、地域代表をメンバーに入れることについては今後検討させていただきたい。
- ・総合学科について、1年生の「産業社会と人間」の学習を通じて進路について学習し、2年生からの系列を決めることになる。久慈工業高校と統合した場合でも、工業科については3年間を通じて専門科目を学ぶ体制を維持するよう考えている。

(次頁に続く)

【遠藤 久慈市長】

- ・ 久慈高校については地域の拠点校として、教員配置を維持するために5学級が必要であれば、その維持をお願いしたい。仮に学級数が減った場合でも、学力の維持ができるような体制への配慮をお願いしたい。学級数が減り教員配置が減り、学力レベルが下がるというのでは元気がなくなる。久慈市では医師不足の問題もあるし、地元出身の教員も少ない。優秀な人材が育ち地元に戻る、あるいは地元に戻らなくても、中央省庁や大手企業に就職し、常に故郷を忘れず地元貢献する人材も必要である。
- ・ 久慈東高校と久慈工業高校についても、卒業生の多くに地元の産業振興を担っていただいている。産業振興を図る上で、久慈高校だけ良ければということではなく、バランスが大事である。
- ・ 通学支援については、激変緩和のための一定期間の支援ということであるが、期限を設けられると通学する生徒の自己負担が大きくなる。激変緩和だけではなく、教育に必要な手当てについては、県教委でも続けるというスタンスをお願いしたい。市町村も財源的に厳しい状況である。経過措置ではなく地域の活性化と、ここに住んでも十分な高校教育が受けられるというメッセージを県教委から発信してほしい。
- ・ 県では知事部局が財政を担当するが、地元市町村も一緒になって要望したいので、最初から期限を設けるようなことをせず、一緒に取り組もうという姿勢を持ってほしい。
- ・ 子どもが減る中でどうするかということで悩み、皆さんが発言している。学力のレベル下がる、徐々に子ども達が減っていく、学校を統廃合とするだけでなく、夢と希望を持てるようにできるだけの配慮をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 学力レベルの維持のための取組については、十分に対応を考え検討したい。
- ・ 通学支援については、平成28年度に検討するにあたり、他県での取組も参考としつつ、意見等を踏まえ検討して参りたい。

【日當 洋野町 副町長】

- ・ 久慈高校をセンタースクールとして位置付けて取り組むということはあっても良いが、中学校長会長の意見にあるような、そのために他の普通科が減っても良いという考えは気になる。これまでの議論を踏まえ、センタースクールを作るために他の高校の学級数が減っても良いという考えは持たないでほしい。

【小田 野田村長】

- ・ 校舎制を導入する場合、道路が整備されるとプラスとなることはある。普代村から盛岡市内の高校に約9%が入学しているが、野田村はゼロである。
- ・ 野田村でも山間地域に住む子ども達は通学が難しく、下宿するしかなかった。地域には様々な事情があり、道路整備はその解消につながっている。
- ・ 今回示されている入学者推計等のデータは、道路が整備されることによって問題が解消されることを前提としないデータであり、状況は変わってくることも再度認識してほしい。

【吉田 久慈市立侍浜中学校PTA 会長】

- ・ 久慈工業高校が計画通りに校舎制で工業学科が1学科となった場合に、現在ある学科については、どういう取扱いになるのか。
- ・ 通学支援について、これから高校に進学する子ども達が通学に大変な思いをすると、自分の子ども
(次頁に続く)

には同じ苦勞をさせたくないと思い、地元に戻ってこないことも考えられる。その意味でも、通学支援は重要だと思う。検討をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 久慈工業高校が学級減になった場合の学科の設置については、現在学んでいる内容を引き続き学べるように今後検討していきたい。現時点で決定しているものではない。

【県教委】

- ・ 各市町村が地方創生に取り組んでいることを踏まえ、皆様からいただいた意見を尊重し、1学級校でも存続させるという判断をしたもの。決してハードルが低いわけではない。学校は教員だけで成り立っているのではなく、生徒がいて地域から支えられ初めて社会性が涵養されると考えている。
- ・ 1学級校では、ある程度厳しい学校経営が予想される。県教委としてもできるだけの支援をするが、地域の支えがあって成り立つものと考えており、地域からの特段の御支援を賜りたい。
- ・ 35人学級については、義務教育でまだ完成されていない状況である。まずは義務教育での35人学級の完成に知恵を絞りながら取り組んでいることに御理解を賜りたい。
- ・ センタースクールについての御意見もいただいた。入試科目が多様化していることから、大学入試に対応するために5学級規模の配置が必要と捉えているが、学級減となっても十分な教員配置等への配慮は必要と捉えているもの。
- ・ 産業人材の育成についても、十分意を尽くして参りたい。
- ・ 校舎制については、専門性の維持、選択肢の維持、学校を存続させてほしいという地域の思いがあり、知恵を絞った上で提案させていただいた。決してこれが決定ではなく、何か良い案があれば取り上げたいと考えている。また、計画の実施時期についても、様々な角度から、持ち帰り検討して参りたい。
- ・ 久慈ブロックとしての人材育成の観点に立ち、再編計画を進めていかなければならない。ある学校の生徒が増えるということは、どこかの学校の生徒が減るということでもある。その中で学校・学科の配置を検討しなければならない。そもそも義務教育の上に乗った高校教育であり、まずは義務教育でも十分な人材育成を図った上で、さらに高校と一体化した人材育成を進めて参りたい。
- ・ 本日頂いた御意見は、新たな高校再編計画の策定に向けた参考とさせていただきたい。